

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

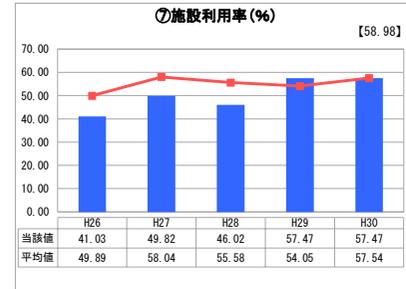
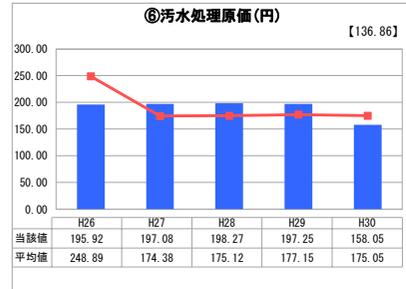
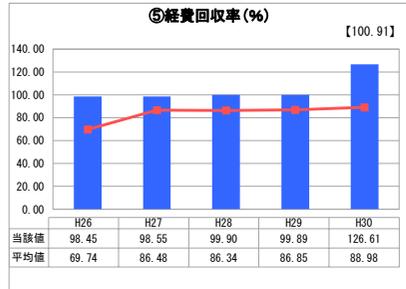
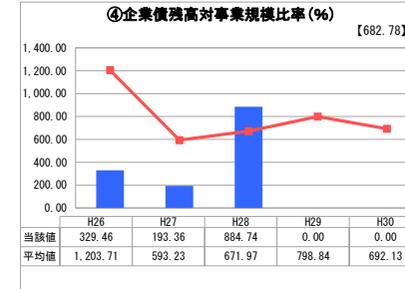
宮城県 川崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	63.54	99.68	3,387

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
8,805	270.77	32.52
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
5,566	4.29	1,297.44

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

○収益的収支比率  
平成30年度は100%を超えているものの、企業償還金の財源は一般会計からの繰入金に頼っている状況です。平成28年度から運転管理業務委託の範囲を拡大しトータルコストの削減を進めているところです。

○企業債残高対事業規模比率  
企業償還額が減少した一方で、収支の悪化により一般会計からの繰入金で財源を補ったため当該比率は0となりました。

○経費回収率  
下水道使用料の徴収とコスト削減に努めた結果、回収率が上昇したものです。

○施設利用率  
類似団体平均を上回りましたが引き続き、浄化槽利用を推進し利用率の向上を図ります。

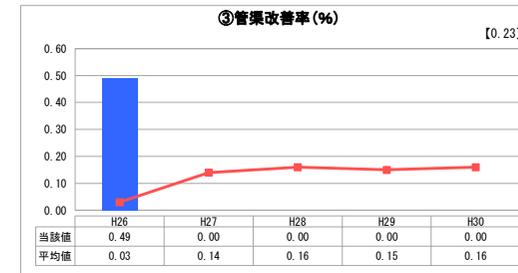
○汚水処理原価  
下水道使用料の徴収とコスト削減に努めた結果、原価の減少に繋がったものです。

○水洗化率  
処理区域内の新築件数及び水洗化戸数が増加したため上昇したものです。

### 2. 老朽化の状況について

○昭和60年の供用開始以降、定期的な点検や修繕を実施しておりますが、ほとんどの設備が耐用年数を大幅に過ぎていることから、平成30年度に「釜房環境浄化センター機械・電気設備ストックマネジメント実施方針」の策定を開始、今後青根浄化センターや町内のポンプ場・管渠を対象に計画的に設備の更新を進める状況です。機能停止等の未然防止を図ると共に、限られた財源の中でライフサイクルコストを最小限とするよう努めます。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

当町の下水道事業は供用開始から30年以上が経過しており、老朽化が進む設備の更新が直近の課題となっております。計画的に設備更新を進めながら、包括的民間委託の範囲拡大など効率的な運営改善に努めてまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。